

健康にアイデアを

meiji

2022年度 第1四半期決算説明資料

対象期間：2022.4.1-6.30

2022年8月9日

2022年度 第1四半期連結決算のハイライト

(億円)	21年度 1Q実績	22年度		22年度 上期計画	
		1Q実績	前年同期比		上期計画 進捗率
売上高	2,359	2,471	+4.8% +112	48.7%	5,070
営業利益	186	180	△3.1% △5	44.0%	410
営業利益率	7.9%	7.3%	△0.6 pt	—	8.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	124	160	+28.2% +35	51.7%	310
E P S	86.09円	113.73円	+27.64円	—	215.15円

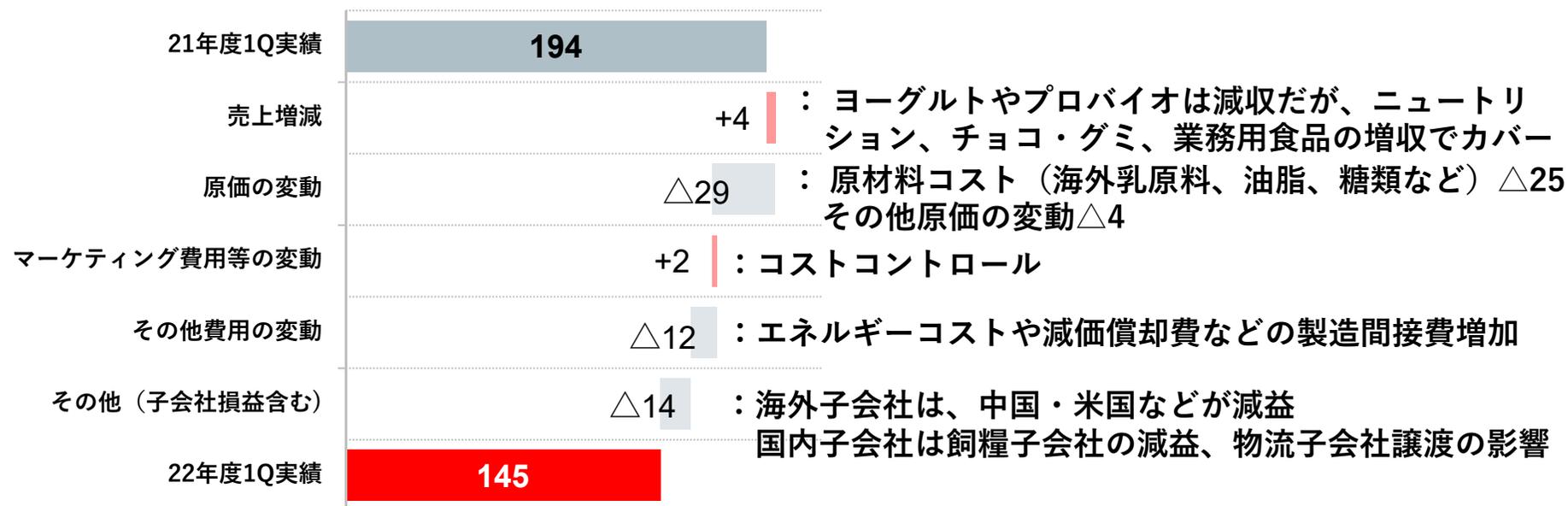
● 1Q実績：増収減益

- ・ 売上高は食品、医薬品ともに増収
- ・ 営業利益は、食品は大幅減益、医薬品は大幅増益
- ・ 四半期純利益は大幅増益。物流子会社の譲渡により関係会社売却益や固定資産売却益を計上したことで、特別利益が増加

食品：2022年度 第1四半期 決算概要

(億円)	21年度 1Q実績	22年度 1Q実績		22年度 上期計画
		前年同期比	上期計画 進捗率	
売上高	1,998	2,043	+2.3% +45	49.4%
営業利益	194	145	△25.3% △49	42.5%

営業利益 増減分析



食品：2022年度 第1四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ヨーグルト・ チーズ	ニュートリ ション	チョコレート・ グミ	牛乳	業務用 食品	フローズン・ 調理食品	海外	その他・ 国内子会社
21年度1Q営業利益	194	100	48	21	△0	3	5	1	14
売上増減	+4	△24	+9	+9	△4	+8	+3	+1	+2
原価の変動	△29	△6	△9	△4	△0	△5	△3	△1	△1
経費等の増減	△10	△9	△7	+1	+4	△2	+2	△1	+1
マーケティング費用 等の変動	+2	△5	+1	+3	+4	△1	+1	△1	+0
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△12 (△0)	△4	△8	△2	+0	△0	+1	△0	+1
その他 (子会社損益など)	△14	△1	+0	△0	△2	△0	+1	△5	△5
22年度1Q営業利益	145	61	41	26	△3	4	7	△4	11

食品：2022年度 第1四半期 主な事業別概況

■ ヨーグルト・チーズ

(億円)	22年度 1Q実績	前年同期比
売上高	502	△7.5% △40
営業利益	61	△39.0% △39

売上高 対前期増減率	1Q
プロバイオティクス	△9.8%
ヨーグルト	△6.1%
チーズ	△9.5%

● 市場

- ヨーグルト：△5～6%
- チーズ：△4～6%

→消費トレンドの弱さ、節約意識などを背景に前年からの減少傾向が続く

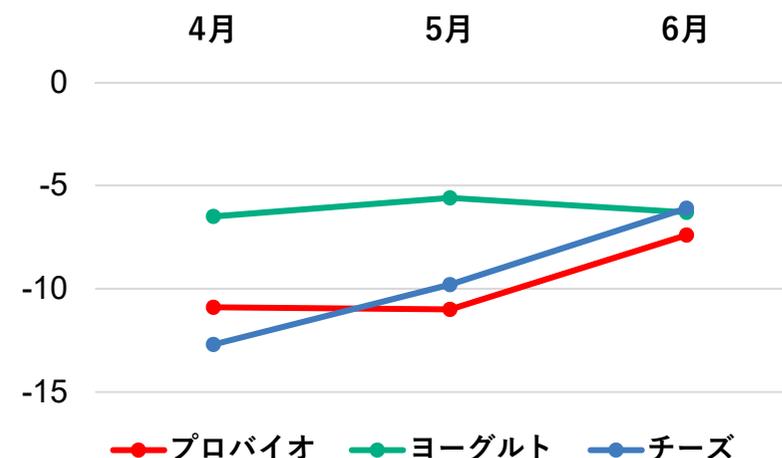
● 売上高

特に4-5月の落ち込みが大きく減収。「LG21」には底打ち感も見えており、今後の回復に期待

● 営業利益

減収に加え、原材料コストやマーケティングコスト増により大幅減益

当社月次売上高の対前年同期増減率 (%)



食品：プロバイオティクス成長回復への取り組み



R-1

- 1Qは前年同期を下回るも、4月発売の「満たすカラダ」シリーズは計画以上で推移
- 8月末以降、ラベルレスのドリンク6本入りを発売予定
- 引き続きマーケティングと商品の両面からテコ入れを図る



LG21

- 4月のパッケージ変更以降、TVCMなどのマーケティング強化も奏功して好調に推移
- 6月にはカップタイプが機能性表示を取得



新商品

- 下期発売に向けて準備中、機能性表示も取得



食品：2022年度 第1四半期 主な事業別概況

■ ニュートリション

(億円)	22年度 1Q実績	前年同期比
売上高	289	+5.8% +15
営業利益	41	△14.4% △6

● 市場

- スポーツプロテイン（粉末・顆粒）：△4~5%
- 流動食：病院・在宅ともに伸長

● 売上高

流動食や乳幼児ミルクは増収。価格改定と容量変更を実施した「ザバス」シリーズは前年同期並み

● 営業利益

原材料コストや減価償却費の増加により、大幅減益

■ チョコレート・グミ

(億円)	22年度 1Q実績	前年同期比
売上高	220	+5.5% +11
営業利益	26	+23.0% +4

● 市場

- チョコレート：△3~4%。巣ごもり需要の減少、6月気温急上昇の影響
- グミ：+25~26%で回復基調

● 売上高

チョコスナック、「チョコレート効果」、グミが売上成長をけん引

● 営業利益

収益性の高い商品群の増収により大幅増益

食品：コストアップへの対応

22年度 通期営業利益への影響

(為替前提)
期初計画 1ドル=120円

- ・ 原材料コスト増 約125億円
- ・ エネルギーコスト増 約15億円



(為替前提)
追加見通し 1ドル=135円前後

- 約95億円 (11月乳価アップ含む)
- 約35億円

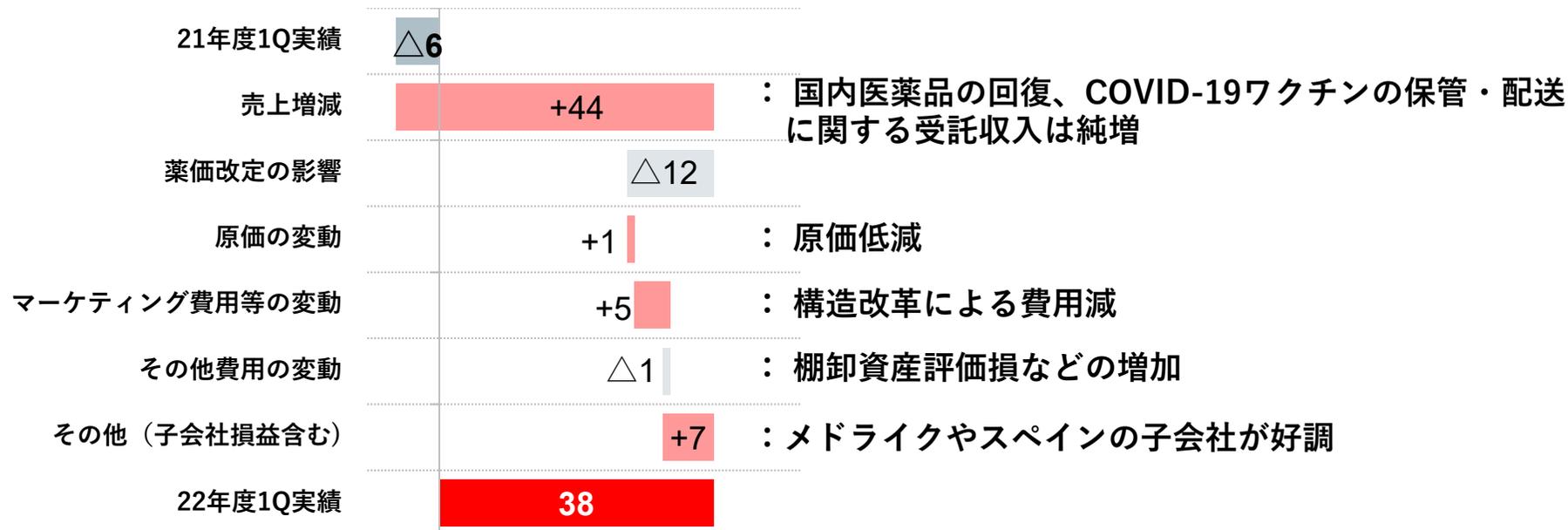
円安の進行、原材料相場の高騰、期中の乳価上昇などを背景に、期初計画を大幅に上回るコストアップを想定

- 追加的な価格改定の検討・実施
- マーケティング施策の取捨選択
- コスト低減の徹底

医薬品：2022年度 第1四半期 決算概要

(億円)	21年度 1Q実績	22年度 1Q実績	前年同期比	上期計画 進捗率	22年度 上期計画
売上高	362	428	+18.3% +66	46.1%	930
営業利益	△6	38	— +44	49.2%	77

営業利益 増減分析



医薬品：2022年度 第1四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	医薬品 全体	国内医薬品	海外医薬品	ヒト用 ワクチン	動物薬*
21年度1Q営業利益	△6	△7	1	3	△3
売上増減	+44	+48	+1	+3	△8
薬価改定の影響	△12	△12	—	—	—
原価の変動	+1	△0	△0	+1	+0
経費等の増減	+4	△6	+1	△1	+11
マーケティング費用等の変動	+5	△0	+0	△1	+6
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△1 (+0)	△6	+1	△0	+5
その他 (子会社損益など)	+7	△0	+17	△13	+4
22年度1Q営業利益	38	20	19	△6	4

*21年度には事業譲渡前の農薬事業の実績が含まれます。また22年4月に動物薬および動物用ワクチン事業を担う明治アニマルヘルス株式会社が設立されたことに伴い、22年度の動物薬事業の営業損益は「その他（子会社損益など）」に集約されています。

医薬品：2022年度 第1四半期 主な事業別概況

■ 国内医薬品

(億円)	22年度 1Q実績	前年同期比
売上高	231	+32.6% +57
営業利益	20	— +28

● 市場

医療機関受診患者数の増大とともに、診療科別レセプト件数*も引き続き増加傾向

【22年4月度】

vs 21年4月 小児科+7%、耳鼻咽喉科+9%

vs 19年4月 小児科△7%、耳鼻咽喉科△15%

● 売上高

抗菌薬「スルバシリン」やOD錠を発売した「ピラノア」が大幅増収。COVID-19ワクチンの保管・配送に関する受託収入も寄与し、薬価改定の影響をオフセット

● 営業利益

増収により増益

■ ヒト用ワクチン

(億円)	22年度 1Q実績	前年同期比
売上高	43	△4.8% △2
営業利益	△6	— △9

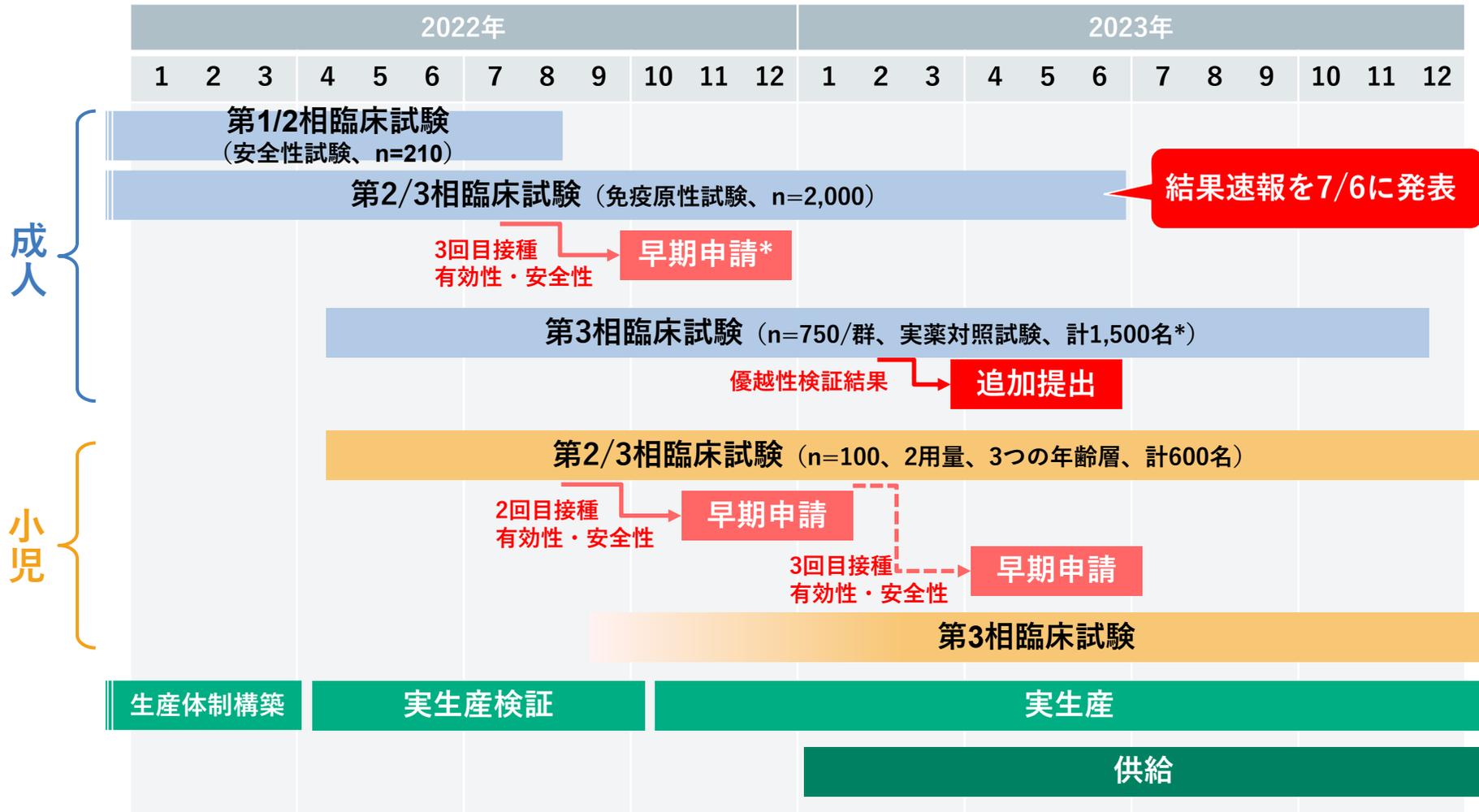
● 売上高

日本脳炎ワクチン「エンセバック」が大幅伸長。COVID-19ワクチン製剤化による収入が今期はなかったことで、全体としては減収

● 営業利益

受託収入の減と、棚卸資産評価損の影響により減益

医薬品：COVID-19不活化ワクチン（KD-414）の開発 **meiji**



- P2/3結果速報では、P1/2と同様に若い年齢層ほど中和抗体価が高い傾向
- 未接種の成人向けと18歳未満の小児向けで22年度内の供給を目指す

2022年度 連結計画：変更なし

(億円)	21年度実績		22年度計画			
	上期	通期	上期	前年同期比	通期	前年同期比
売上高	5,007	10,130	5,070	+1.3% +62	10,355	+2.2% +224
営業利益	503	929	410	△18.5% △93	925	△0.5% △4
営業利益率	10.1%	9.2%	8.1%	△2.0 pt	8.9%	△0.2 pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	366	874	310	△15.4% △56	625	△28.5% △249
EPS	252.54円	607.24円	215.15円	△37.39円	433.76円	△173.48円
1株当たり配当金	80円	170円	85円	+5円	170円	—
配当性向	—	28.0%	—	—	39.2%	+11.2 pt
ROE	—	13.5%	—	—	9.0%	△4.5 pt
ROIC	—	8.4%	—	—	8.0%	△0.4 pt
設備投資額	480	931	493	+2.7% +12	963	+3.5% +32
営業CF	611	1,275	—	—	700	△45.1% △575
フリーCF	255	999	—	—	△200	— △1,199



参考資料

2022年度 第1四半期 連結財政状態

(億円)	22年6月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	4,811	+5.6% +255	・現金及び預金 (+203) ・商品及び製品 (+70) ・その他 (+44) ・受取手形及び売掛金 (△96)
固定資産	6,632	+0.2% +13	・機械装置及び運搬具 (純額) (△30) ・土地 (△8) ・建物及び構築物 (純額) (+34)
資産合計	11,443	+2.4% +268	—
流動負債	3,021	+5.4% +153	・短期借入金 (+375) ・未払法人税等 (△124) ・支払手形及び買掛金 (△61) ・賞与引当金 (△48)
固定負債	1,168	△0.7% △8	・長期借入金 (△8)
負債合計	4,189	+3.6% +145	—
株主資本	6,361	+6.2% +33	・利益剰余金 (+33)
その他の包括利益 累計額	502	+24.3% +98	・為替換算調整勘定 (+117) ・その他有価証券評価差額金 (△25)
非支配株主持分	388	△2.0% △7	—
純資産合計	7,253	+1.7% +123	—
有利子負債	1,179	+45.1% +366	・短期借入金 (+375)
自己資本比率	60.0%	△0.3 pt	—

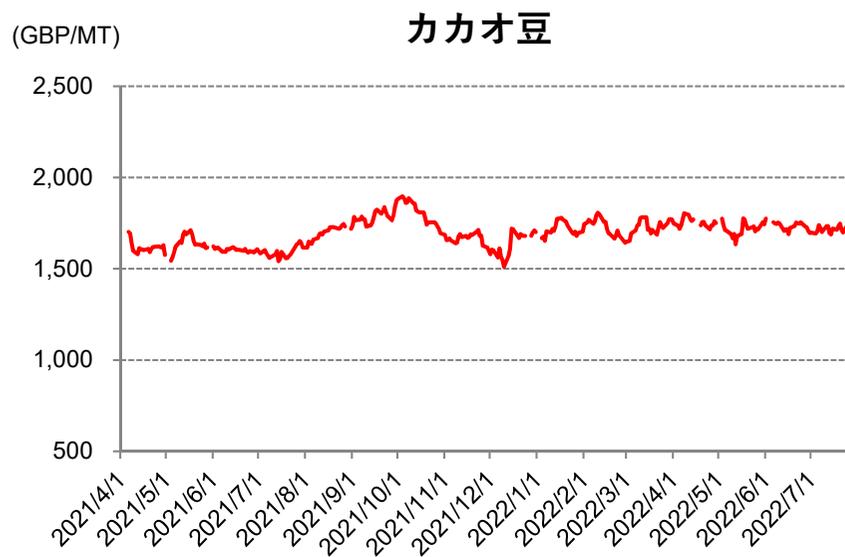
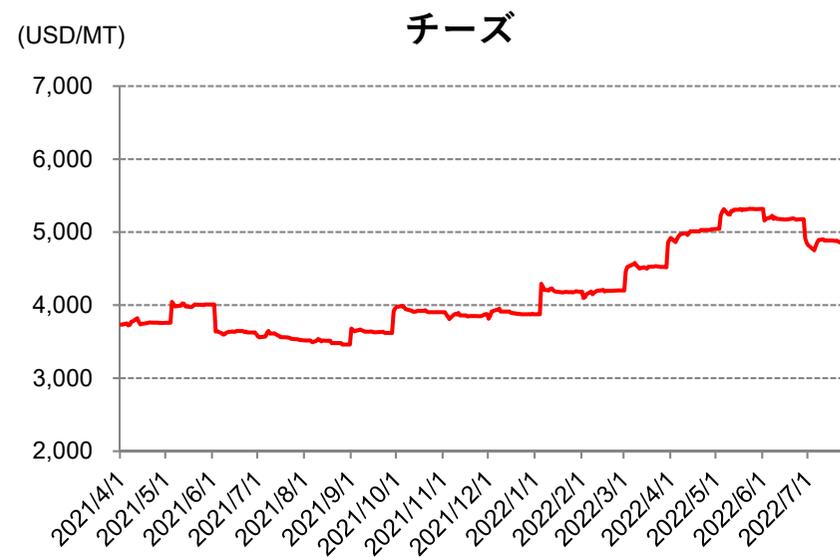
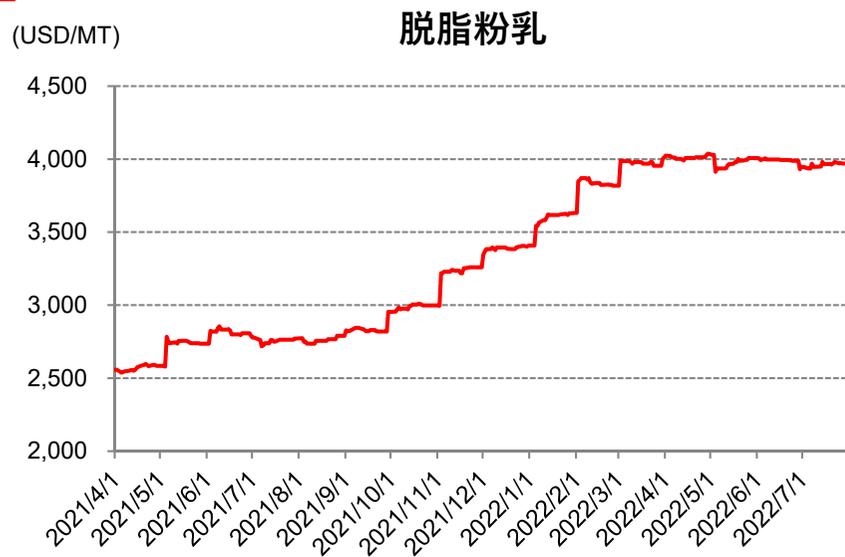
2022年度 第1四半期 連結C F

(億円)	22年度 1Q実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	47	+5	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前四半期純利益 (+40) ・仕入債務の増減額 (+24) ・法人税等の支払額 (+20) ・その他 (+81) ・有形固定資産売却損 (△42) ・契約負債の増減額 (△17) ・たな卸資産の増減額 (△19) ・売上債権の増減額 (△85)
投資キャッシュフロー	△89	+34	<ul style="list-style-type: none"> ・有形及び無形固定資産の売却による収入 (+58) ・有形固定資産の取得による支出 (+30) ・補助金の受取額 (△42)
フリーキャッシュフロー	△42	+40	—

食品：2022年度 第1四半期 主力品の売上動向

(億円)	21年度 1Q実績	22年度 1Q実績	22年度		22年度 上期計画
			前年同期比	上期計画 進捗率	
ヨーグルト	212	199	△6.1%	46.5%	428
プロバイオティクス ヨーグルト	253	228	△9.8%	45.3%	503
市販チーズ	75	68	△9.5%	49.9%	136
チョコレート	198	205	+3.5%	49.8%	411
乳幼児ミルク・流動食	146	163	+11.7%	51.9%	314
スポーツ栄養 (ザバスミルク含む)	117	118	+0.6%	44.5%	266
市販・宅配牛乳	198	179	△9.5%	47.2%	379
市販アイスクリーム	104	110	+6.2%	44.6%	247

主要輸入原料相場の動向



健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。